

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 赤 崎 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生は、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・言語についての知識・理解・技能は、正答率にばらつきが見られる。 ・話す・聞く能力を問う問題に課題が見られる。
	よくできた問題	・学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む問題は、正答率が高い。
	努力が必要な問題	・ローマ字に関する問題の正答率が低かった。

国語B	全体的な傾向や特徴など	・目的に応じて、自分の考えを明確にして書く問題に課題がある。
	よくできた問題	・目的に応じて複数の本や文章などを選んで読む問題は、正答率が比較的高かった。
	努力が必要な問題	・目的に応じて、質問したいことを整理する問題の正答率は低かった。(グラフの読み取りも低い)

算数A	全体的な傾向や特徴など	・図形の構成要素についての問題等、図形領域の正答率が上がってきた。 ・割合を求める問題に苦手意識をもっている児童が多い。
	よくできた問題	・二つの数の大小関係を表す不等号の問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・1を超える割合を百分率で表し、基準量と比較量の関係について正答率が低かった。

算数B	全体的な傾向や特徴など	・示された式の意味やグラフから必要なことを読み取って判断し、自分の考えを記述することへの苦手意識が高い。
	よくできた問題	・示された条件を基にほかの正方形について検討し、同じきまりが成立するか判断する問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味を説明する問題は、正答率が低かった。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・話し合う活動は増えてきたが、考えを出し合い、思考を深め合う活動につなげる工夫が必要である。 ・将来の夢をもっている、自分にはよいところがあると答える児童は、全国に比べても高い数値にある。 ・休日に勉強する時間が1時間以内の児童の変化が見られず、課題である。休日においても、2時間以上勉強することができるよう、家庭と協力して進めていく必要がある。 ・学校に行くことを喜んだり、学校の出来事について話をしたりする児童が増えてきている。 ・2時間以上テレビを見たり、ゲームをしたりする児童の割合が年々増えてきている。家庭学習に時間を充て、テレビ・ゲームをする時間を減らしていかなければならない。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・本校の課題に沿った授業改善の工夫や手だてを指導案に位置づけ、更に研究を深める。 ・「話し合う活動」と「書く活動」を一単位時間に必ず位置づける。特に「書く活動」の習慣化を目指す。 ・学力向上のための特設時間「赤崎タイム」の継続して実施する。 ・過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用を継続する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・学年の実態に応じた家庭学習の点検表や学習時間の設定を作成し、引き続き家庭に啓発していく。 ・全国学力・学習状況調査、CRTの課題と取組を保護者へ周知する。(学校便りやホームページ) ・小6スクリーニングによる中学校教師の授業参観を行い、課題解決の方法を共に探る研修会を実施する。
--